

Abstract

昨年から、人工知能を用いた学術研究の全自動化の取り組みが進みつつある。例えば今年 **Sakana AI** による **AI Scientist** は自動生成論文の査読つきコンファレンスへの採択に成功した。ただ、その影響はまだ人工知能研究やデータサイエンスの領域に留まっている。それに対し、本研究では、人文社会科学という一見すると関係が薄いと思われる領域において、人工知能の学術研究への活用可能性を検証する。特に、近年 **Replication Crisis** と呼ばれるように既存研究の再現性検証不足が問題されており、論文の信憑性に疑問が持たれている問題について、本研究では既存研究のリプリケーションを人工知能を用いて自動化する手法を提示する。質問表を用いた社会学分野の既存論文について、人工知能に論文やコードブックを読み込ませた上で、その自動再現を行った。今回の報告では、簡単なケースにおける成功事例と、また逆に人工知能が失敗するケースやその要因について議論し、人工知能が今後数年の間にどのように人文社会科学の研究手法を変革しえるかを展望する。